

高野山大学 フジキン小川修平記念講座 公開講座

「宇宙の摂理への想いー科学と宗教の立場から」

2012年11月30日、大阪市中央公会堂

いのち・いやし・いのり

ー宗教と科学の根底にあるものー

棚次正和(京都府立医科大学)

TANATSUGU Masakazu

1-1. 「いのち」

- 医学準備教育の経験から学んだこと

とうとう異界(医界)に迷い込んでしまった！

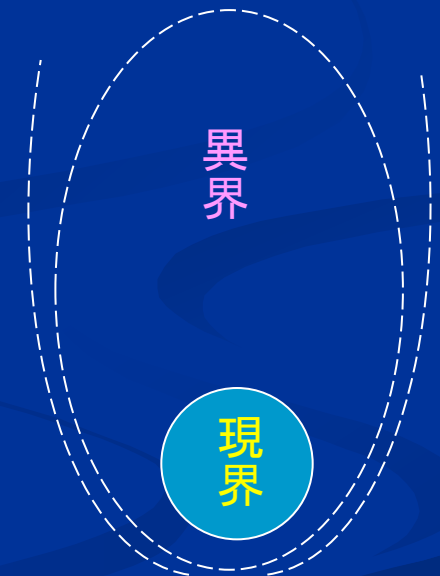
「千と千尋の神隠し」(宮崎駿監督、2001年7月)
Spirited Away



1-2. 「いのち」

■ どこが異界なのか？

- ①教育－医学科の学生(理数系が得意)が対象。
自然科学(実験系)が優遇されている(必修科目)。
医学専門教育と比べて、**医学準備教育**は
二流市民(second-class citizen)扱い。
- ②研究－自然科学(物理学、化学、生物学、数学など)の
中に位置づけられた医学。
人文・社会科学は医学研究と連携し難い。
(**特殊な個性記述**と、普遍的な法則定立)
- ③住環境－日常の時空間に出現した非日常の時空間
(**附属病院**)が心理的に近接。患者が溢れ、
白衣の医療従事者とすれ違う。
いったい、ここで何が起きているのか？
(人は**病院**で生まれ、**病院**で老化や病気の医療を受け、
そして**病院**で死んでゆく。**生老病死の四苦**が集まる所)



1-3. 「いのち」

- これは自己同一性崩壊の危機！

(わたしは誰か?) (千尋が千に変えられたように)

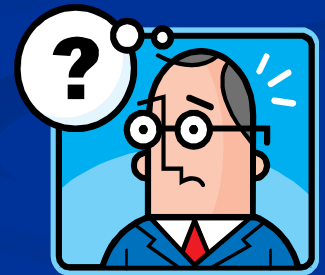
$A \neq A$?

- いったい、どう振る舞ったらいいのだろうか？

- ◆ 生命あるものの身体・物体に教育や研究の比重が置かれているという現状。生命は物質から誕生したと見る思想。

⇒ 「生命」を「いのち」の次元から捉え返すこと。

生命あるものを捉えるときに、そのものをそのものたらしめているもの(生命の根源)に目を向けること。



- ◆ それぞれの学問がそれぞれの視点から捉えた、バラバラに分断された人間像。「人間とは何か」がさっぱり分からない。

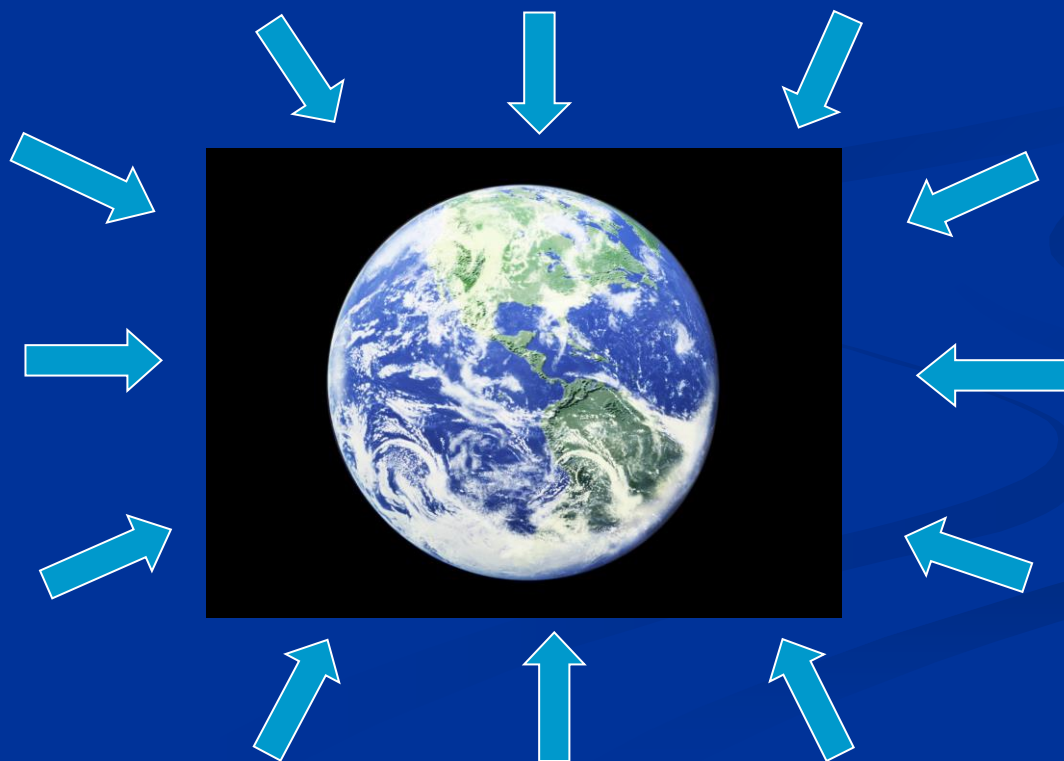
⇒ 分断された人間像を一つの全体に統合すること。

自然科学の知見と人文・社会科学の知見との統合が21世紀前半の課題。(ホリスティックな視点を持つこと)

2-1. 生きるということ

- 生きるということに対する様々なアプローチ(接近法)

それぞれの学問の切り口から撮影した断層写真



2-2. 生きるということ

◆時実利彦(大脳生理学) 説 ◆



生きている姿—植物的な生き方—反射活動と調節作用(脳幹・脊髄系)

生きてゆく姿—動物的・人間的な生き方

たくましく生きてゆく姿—本能行動と情動行動(大脳辺縁系)

うまく生きてゆく姿—適応行動(大脳新皮質系)

よく生きてゆく姿—創造行為(大脳新皮質系)

☆ 「生かされて生きている」という宗教的形而上学的な感覚の目覚め

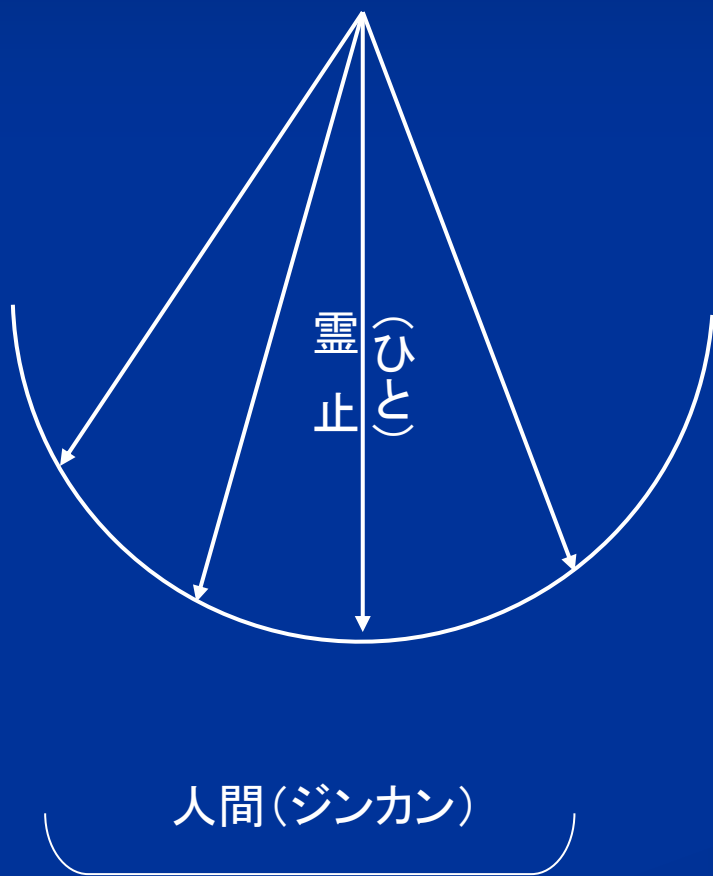
3-1. いまここで生きていること (実存 = existence) の三重の次元

- **いのち** 尊厳・神聖の価値 自分自身「**1人称**」が対象
〈人文科学〉
- **生活** 社会的な人間関係 人間「**(1・2) 3人称**」が対象
〈社会科学〉
- **生存** 生物固有の在り方 生物「**3人称**」が対象
(生物学)
- **生命** 非物質的なもの 物理化学的現象「**3人称**」が対象
〈自然科学〉

3-2. 実存の三条件

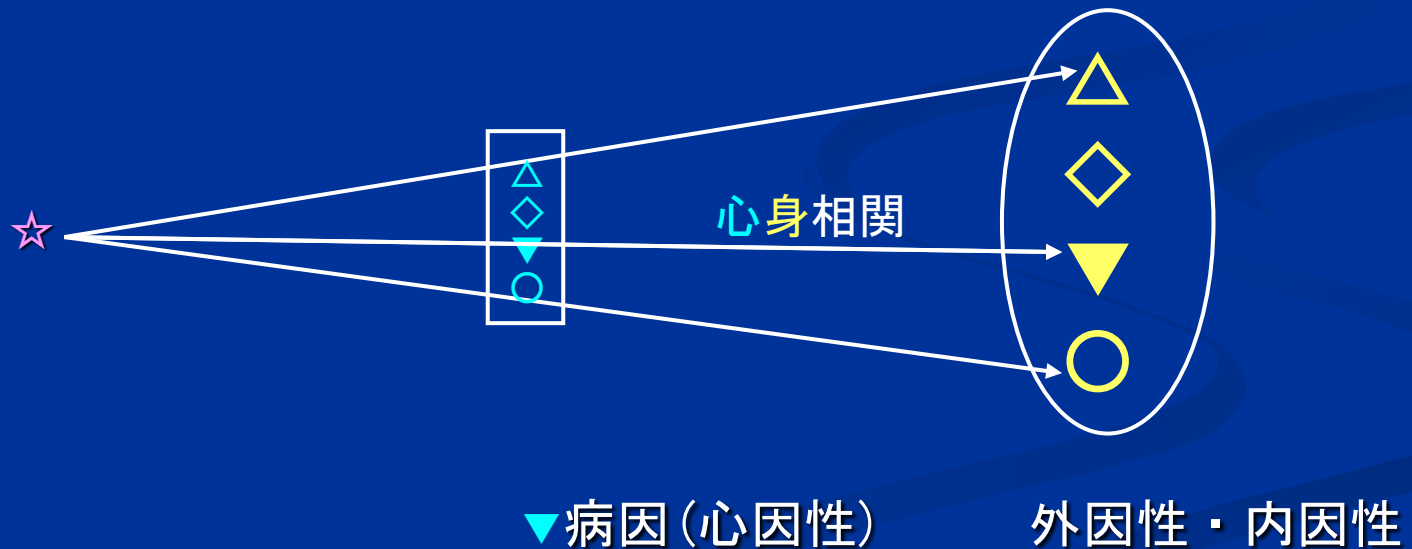
- いま 時間の契機 〈生と死の間の人生〉
- ここで 空間の契機 〈世界と身体〉
- 生きている 人間の契機 (ジカン) 〈因果的な人間関係の総体〉

3-3. 人の存在構造と実存様態



3-4. 人の存在構造、映写機の譬え

光源 (霊 SPIRIT)	フィルム (心 MIND)	スクリーン上の映像 (身 BODY)
--------------------------	--------------------------	-------------------------------



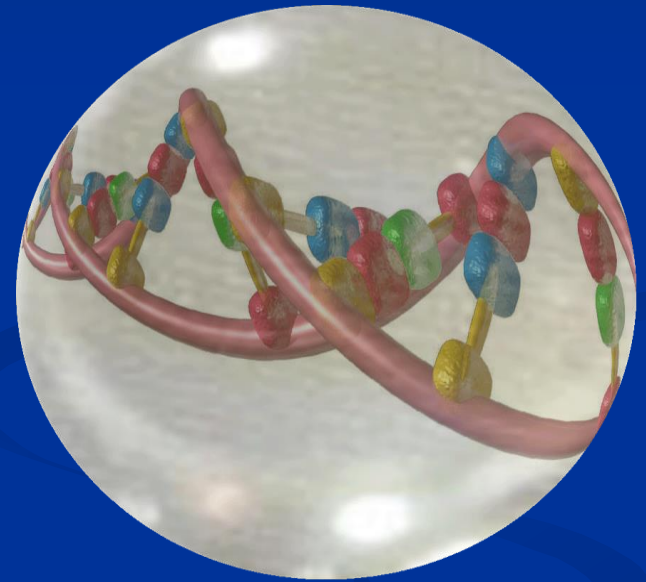
※ 生(命)、Lifeに関する医学辞典の定義

■ 「life」の項目

「1 生命, 生存, 生活(生きていることの根源的状态. 代謝, 発達, 生殖, 適応, 刺激に対する反応などの諸機能によって特徴付けられる存在の状態.

2 生物(動物や植物のような生き物)」『ステッドマン医学大辞典』第6版(メジカルビュー社、2008年)、p. 1032.

- 『南山堂 医学大辞典』(南山堂、1998年)には、「生命」の項目はない。また、「ライフサイエンス」、「ライフサイクル」の項目はあるが、「ライフ」の説明はない。



4-1. 生(life)の見方

■ QOLとSOL

■ QOL (quality of life) = 生命の質、生活の質

生活機能を可能な限り保った人間らしい生活を重視。「よりよく生きること」を目指す。QOL倫理では、生命の質が人格(person)に投影された場合、その人格の要件を自己意識・認識能力・知的判断能力・自由意志などの存在に求めることになる。

⇒ 大脳皮質形成期(妊娠約20週)以前の胎児は人と見なされず(ヒトではあるが)、中絶は殺人ではなく、脳死による臓器移植も問題なく、植物状態の人も人ではない。受精卵も人ではなく、積極的安楽死も容認される傾向にある。

■ SOL (sanctity of life) = 生命の尊厳(神聖性)

生命は無条件に尊い。「生きることそれ自体」に絶対的価値を見出す。

SOL倫理では、人為的に人の死を導くことや、人命の価値を比較考量することは許されない。⇒ 積極的安楽死、胎児の中絶、脳死による臓器移植などは許されない。

4-2. 生(life)の見方

■ 機械論と生氣論

機械論—機械をモデルにして世界の現象を説明する。

(物理化学的法則に従って)

全体は部分の総和に等しい。



生氣論—生命現象を生物独自の因子から説明する。

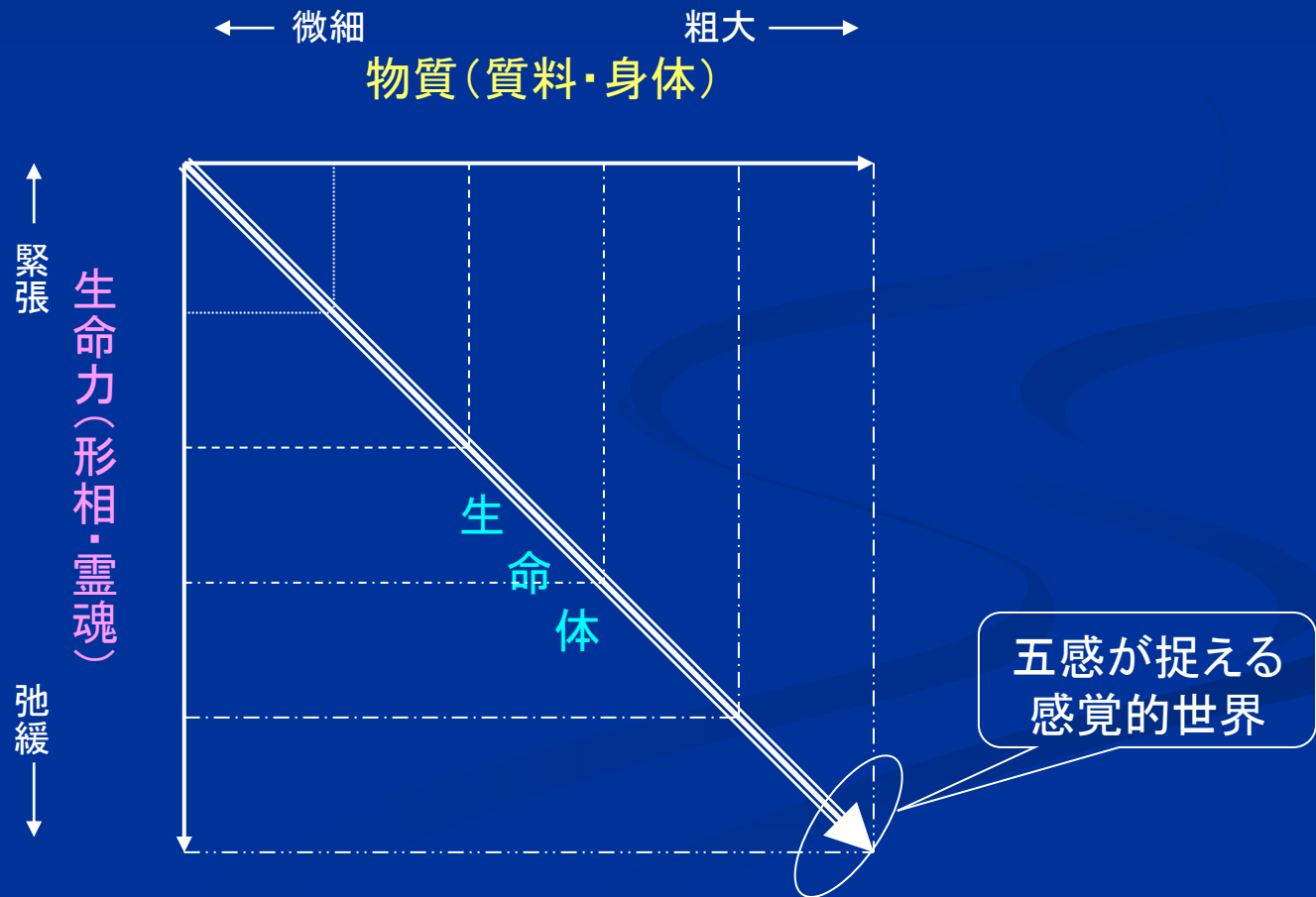
(目的、意図、靈魂など)

全体は部分の総和以上である。

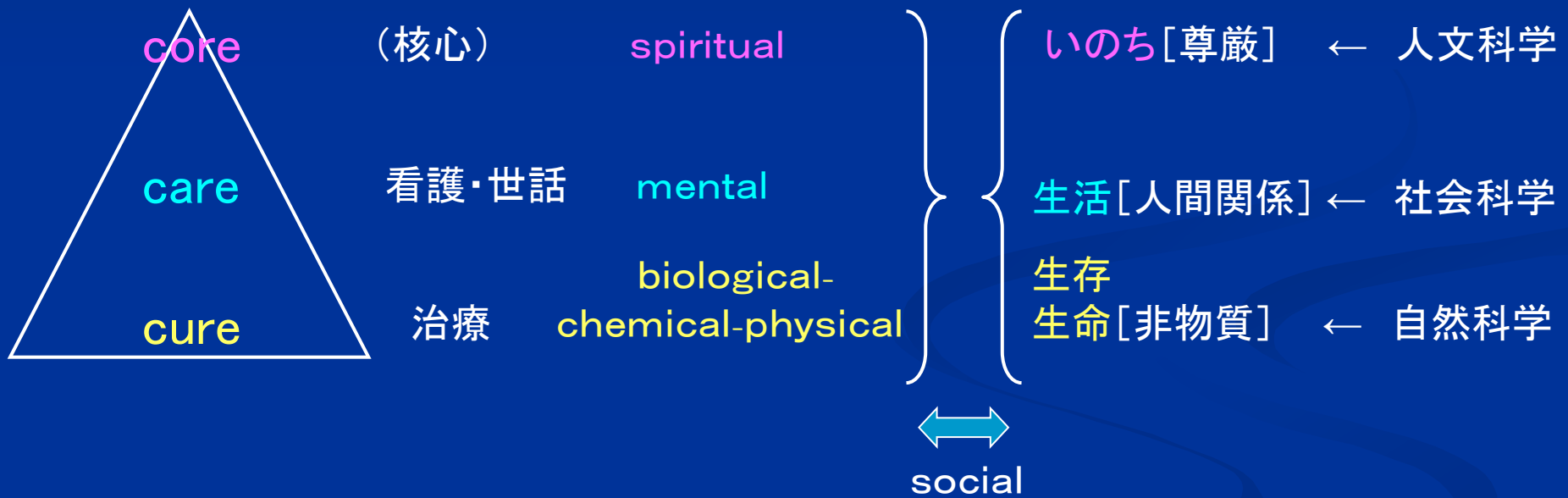


4-3. 生(life)の見方

- 生物(生命体) = 生命力 + 物質



4-4. 生(life)の見方



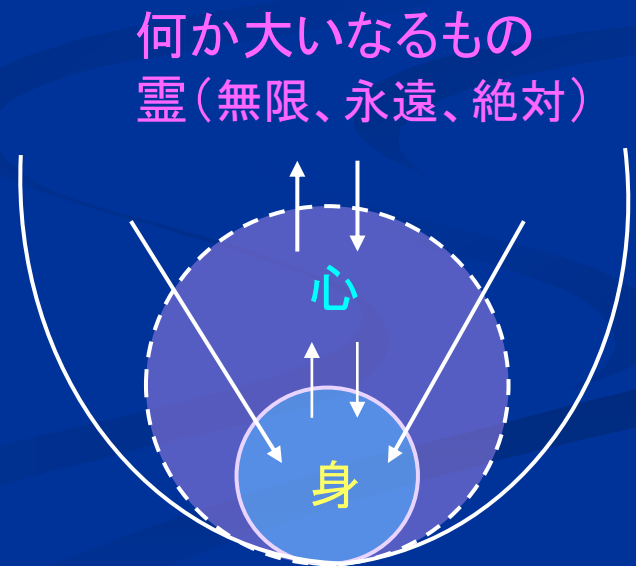
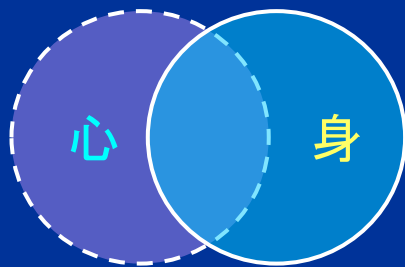
ホリスティック(holistic)とは、physical, mental, social, spiritualの次元のすべてを視野に入れるということ。本当の全人的医療(holistic medicine)。

5. 心身の治癒以上の「いやし」

- 「癒ゆ」(癒える)は、「い」という生命エネルギーが滞りなく円滑に循環して、心や体の不調和な状態が治ること。

心身の治癒 ⇒ **心身相関の根底に働いているものは？**

(生命力の根源＝治癒の原理)



6. 「いのり」とは「いきいきと生きること」

「祈り」は「願い・念力」ではない。⇒ 自我の解消

「祈り」は「心の中の出来事」ではない。⇒ 世界の創造

「祈り」を宗教の枠内に限定しないで、

人間の自然本性に由来する行為・状態と捉える。

鳥が大空を舞い、魚が水中を泳ぐのが自然本性によるように、人間が祈るのも自然本性によるもの。

「祈り」とは「いのちの宣言」である。

自然呼吸を意識化して、

生命をその根源から生きる(息をする)こと。

つまり、いきいきと生きること。

7. 「い」という言葉の意味とネットワーク

- 「いのち」は、「い(息・斎)」+「の」+「ち(力)」
(息の力)
- 「いやし」は、「癒ゆ」より。「い(息・斎)+ゆ」
- 「いのり」は、「い(息・斎)」+「の(宣)り」
(いのちの宣言)

※「い(生命エネルギー)」に関する語彙のネットワーク

いき、いのち、いのる、い(癒)える、いこう、いきる、いきおい、
い(言)う、いきどおる、いぶき、いつ(斎)く、いわう、い(斎・
忌)む、いつ(稜威・巖)など。

8. 宗教と医療の根底にあるもの

- 「いのち」「いやし」「いのり」を貫いて流れているものは「い(息・斎)」という聖なる生命力・生命エネルギー。
- 「宗教」と「医療」を貫いて根底に流れているものも「い(息・斎)」という聖なる生命力・生命エネルギー。
- 今後の課題 = 宗教・霊性と医療の連携

「いのち」 → 生命の根源に眼差しを向けること。〔根源性〕
「いやし」 → ホリスティックな人間観の回復。〔全体性〕
「いのり」 → 祈りの治癒効果を生活・医療に活用。〔現実性〕

■ 白鳥 哲 監督

映画「祈り～サムシング・グレートとの
対話～」

「ストーン・エイジ」(江本 勝さん)

「魂の教育」(七田 眞さん)

「不食の時代」(森美智代さん)



1. 祈りは何でないか

- 祈りは「願い・願望」ではない。
個人の願望を昇華させた祈り＝生命の宣言
- 祈りは「呪い・念力」ではない。
自我欲望の充足ではなく、自我欲望の解消
- 祈りは「人間の弱さ」に起因するものではない。
苦しい時の神頼み、他力本願という誤解
- 祈りは「影響を与えない心中の出来事」ではない。
祈り(発声された言葉や心の想い)は、世界を
変える現実的な行為

2. 「いのり」の語源は？

「いのり」の語源は、「い(息・斎)」+「の(宣)り」、つまり「**生命の宣言**」であると解される。

「い(生命エネルギー)」に関する語彙のネットワーク

いき、いのち、い(癒)ゆ、いこう、いきる、いきおい、い(言)う、いきどおる、いぶき、いつ(斎)く、いわう、い(斎・忌)む、いつ(稜威・巖)など。

3. 祈りは人間の自然本性による行為である

「祈り」を宗教の枠内に限定しないで、

人間の自然本性に由来する行為・状態と捉える。

鳥が大空を舞い、魚が水中を泳ぐのが自然本性
のように、人間が祈るのも自然本性による
ものである。

祈りは自然呼吸を意識化して、

生命をその根源から生きる(息をする)こと。

つまり、いきいきと生きること。

4. 祈りの治癒効果について(1)

- スピンドリフト・リサーチ (Spindrift Research)
1970年代～1990年代前半。

祈る人と単純な生命体(麦の種子、黴、酵母菌など)との相互作用を検査。

⇒ 非目標指向の祈り、非局在的な心、
概念的全体の法則。

4. 祈りの治癒効果について(2)

■ ランドルフ・バード(Randolph Byrd)

1988年。

サンフランシスコ総合病院、心臓病患者393名を2群に分類、

米国内のキリスト教徒の祈り、二重盲検法。

⇒ 有意な結果。

4. 祈りの治癒効果について(3)

■ ハーバート・ベンソン(Herbert Benson)

2006年。

心臓病患者1802名を3群に分類、とりなしの祈り(およびその情報)と冠動脈バイパス移植手術後に合併症を伴わない病気回復との関係を調査。

⇒ 祈りは、術後の合併症を伴わない病気回復に効果はない。祈りを受けることが確実なことは、合併症の発生率がより高いことと関連がある。

5. 祈りの治癒効果に肯定的な医師

- **ハーバート・ベンソン (Herbert Benson)**
ハーバード大学医学校准教授、心身医学研究所長
- **ラリー・ドッシー (Larry Dossey)**
NIHの代替医療室・心身相関療法委員会共同委員長
- **アンドルー・ワイル (Andrew Weil)**
アリゾナ大学医学部教授、統合医療の専門家
- **ハロルド・コーニック (Harold Koenig)**
デューク大学霊性・神学・健康センター長
- **ディーパック・チョプラ (Deepak Chopra)**
内分泌学の専門医、精神世界のリーダー

6. 祈りの研究によって科学と宗教は再会する

- 村上和雄先生(筑波大学名誉教授、国際科学振興財団・バイオ研究所所長)が立ち上げた「心と遺伝子研究会」(2002年)。

心の在り様が遺伝子の発現に影響を与えているのではないかという仮説を検証する試み。

- 「祈り(感謝の祈り)と遺伝子」に関する共同研究の計画

7. 医療に祈りを役立てるために

- 起床時と就寝時に祈る……平和と感謝の祈り
- 人と出会った時(診療時)に祈る……医療従事者も患者も
- イハレアカラ・ヒューレン氏の実例……
 - ホ・オポノポノ(ハワイの伝統的な癒しの技法)
 - 四つの言葉(ありがとう、愛しているよ、赦して下さい、ごめんなさい)
- 全人的医療(Holistic Medicine)……
 - 人間をまるごと全体、いのちの根源を見据えて診(看)る

8. 大切なこと

- ① 自分の無限の可能性に気づく。 【靈性の自覚】
- ② 人生の目標をクリアに持つ。 【生きる意味】
- ③ 一日の初めと終わりに
「平和と感謝の祈り」を。 【ズレの修正】

◇参考文献◇

- 村上和雄・棚次正和『人は何のために「祈る」のか』
(祥伝社、2008年。祥伝社黄金文庫、2010年)
- 棚次正和『祈りの人間学ーいきいきと生きる』
(世界思想社、2009年)

ご清聴ありがとうございました